

コニカミノルタ株式会社  
2014年度第3四半期

# 決算概要

---

代表執行役社長 山名 昌衛

2015年 1月30日

情報機器事業及び産業用材料・機器事業が牽引して前年比増収増益。  
2Q時上方修正した通期計画達成に向けて、インラインの進捗。

**売上高： 7,339億円（前年比 +7%増収）**

- ✓ 情報機器事業でのオフィス及びプロダクションプリントのカラー機販売増とノンハード売上、OPSやITサービス・ソリューション、MPMなどの事業拡大が増収に貢献。

**営業利益： 454億円（前年比 +17%増益）**

- ✓ 情報機器事業の増益に加えて、産業用材料・機器事業はHDD用ガラス基板の事業撤退効果やTACフィルム等の販売増が貢献。為替の円安効果も寄与。

**当期純利益： 220億円（前年比 +103%増益）**

- ✓ 前年1Qでの繰延税金資産見直しに係る税効果(+92億円)、2Qでの事業撤退損失(△168億円)等の特殊要因が減少して、前年比倍増益。

3Qまでの進捗及び4Q見通しを踏まえて2Q決算発表時（14年10月31公表）に上方修正した前回予想を以下の通り見直す。

売上高： 1兆100億円（前年比 +7%増収） <据置き>

営業利益： 650億円（前年比 +12%増益） <据置き>

当期純利益： 330億円（前年比 +51%増益） <前回：300億円>

- ✓ 当期純利益は、資産売却の進展や想定リスクの軽減等の改善を織り込む。
- ✓ 4Qの為替前提：ドル=115円、ユーロ=135円 <前回：ドル=105円、ユーロ=135円>
- ✓ 配当予想：期末配当10円/1株は据え置く。 <前年実績：7.5円/1株>  
※中間配当と合わせた年間配当：20円/1株 <前年実績：17.5円/1株>

# 2014年度 3Q 全社業績要約

	14年度 3Q 累計	13年度 3Q 累計	YoY	14年度 3Q	13年度 3Q	YoY	【億円】
売上高	7,339	6,829	7%	2,553	2,324	10%	
営業利益	454	389	17%	162	147	10%	
(営業利益率)	6.2%	5.7%	-	6.4%	6.3%	-	
のれん代償却額	69	72	-4%	22	22	-1%	
のれん代償却前営業利益	523	461	15%	184	169	9%	
(のれん代償却前営業利益率)	7.1%	6.8%	-	7.2%	7.3%	-	
税引前当期純利益	412	139	196%	137	139	-1%	
四半期純利益	220	108	103%	73	53	39%	
(四半期純利益率)	3.0%	1.6%	-	2.9%	2.3%	-	
F C F	268	238	13%	114	△ 26	-	
為替レート [円] USD	106.87	99.39	7.48	114.54	100.46	14.08	
euro	140.30	132.23	8.07	143.07	136.69	6.38	

# 2014年度3Q セグメント別売上高・営業利益

売上高	14年度	13年度	YoY	14年度	13年度	【億円】 YoY
	3Q累計	3Q累計		3Q	3Q	
情報機器	5,896	5,334	11%	2,084	1,839	13%
オフィスサービス	4,387	4,105	7%	1,527	1,400	9%
商業・産業印刷	1,509	1,229	23%	557	439	27%
ヘルスケア	552	552	0%	188	192	-2%
産業用材料・機器	870	904	-4%	275	279	-1%
産業用光学システム	401	462	-13%	127	143	-11%
機能材料	468	442	6%	147	136	8%
その他	20	40	-	6	14	-
グループ全体	7,339	6,829	7%	2,553	2,324	10%
<b>営業利益 (右側：営業利益率)</b>	<b>14年度</b>	<b>13年度</b>	<b>YoY</b>	<b>14年度</b>	<b>13年度</b>	<b>YoY</b>
	<b>3Q累計</b>	<b>3Q累計</b>		<b>3Q</b>	<b>3Q</b>	
情報機器	489 8.3%	453 8.5%	8%	186 8.9%	182 9.9%	2%
ヘルスケア	13 2.4%	23 4.2%	-44%	3 1.6%	4 2.3%	-31%
産業用材料・機器	163 18.7%	124 13.7%	31%	41 14.9%	34 12.2%	20%
コーポレート他・消去	△ 210	△ 211	-	△ 68	△ 74	-
グループ全体	454 6.2%	389 5.7%	17%	162 6.4%	147 6.3%	10%

※ 情報機器事業の商業・産業用印刷には従来「その他」に含まれていた産業用インクジェットを含む。13年度実績も同じベースに見直した。

## □ 3Q累計売上高： 5,896億円（前年比 +11%）

➤ オフィスサービス、商業・産業印刷両分野とも、カラー製品の販売増やサービス事業の拡大により増収。

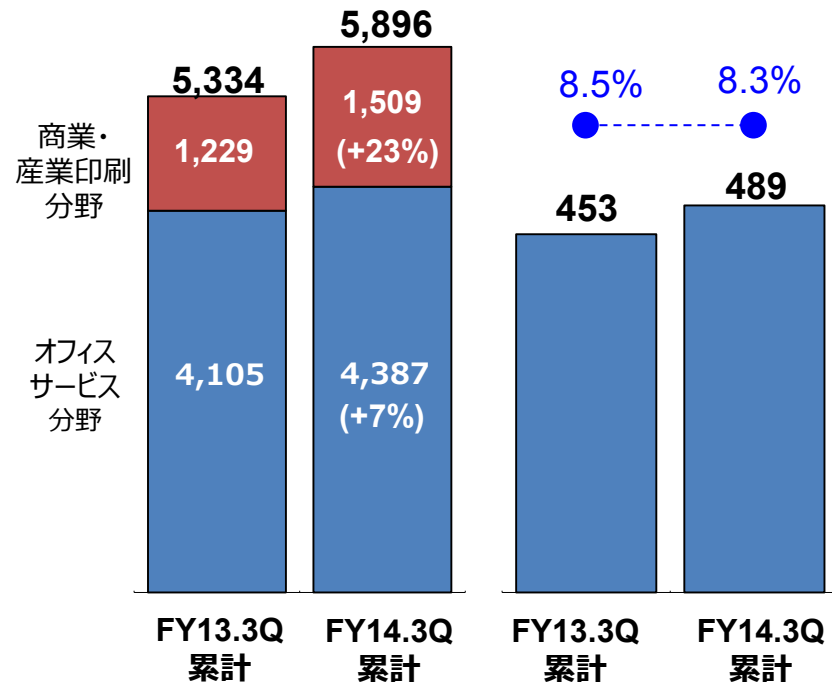
## □ 3Q累計営業利益： 489億円（前年比 +8%）

➤ 商業・産業印刷分野の採算性が上期に引き続き向上し、増益を牽引。

### 売上高/営業利益 対前年増減

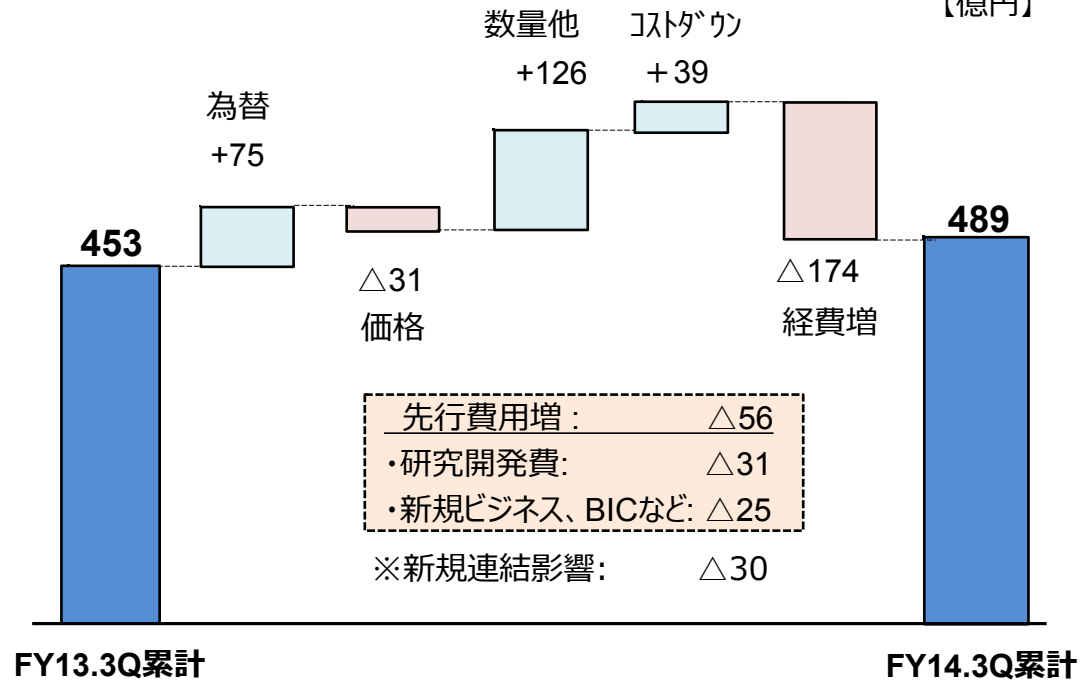
左：売上高 右：営業利益 - 営業利益率

【億円】



### 営業利益 対前年増減分析

【億円】

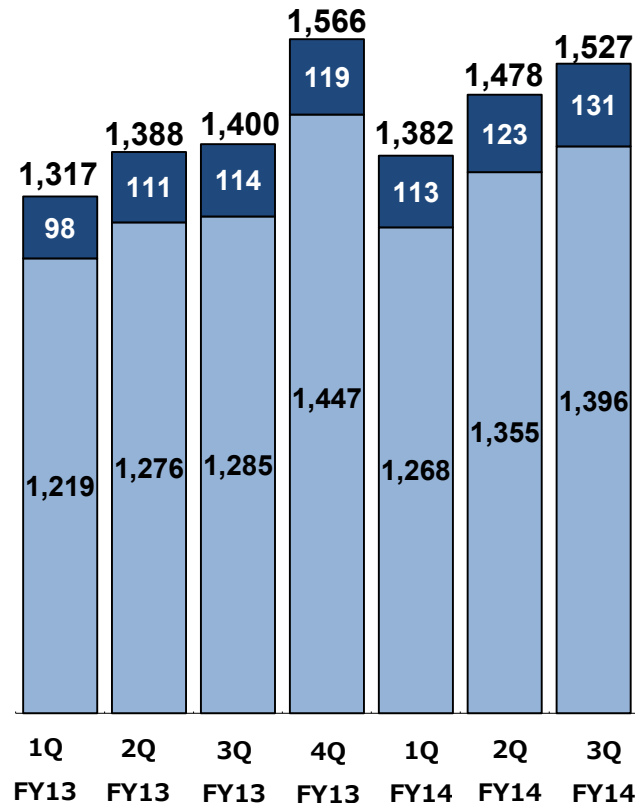


### □ 3Q売上高：1,527億円（前年比 +9%）

- 日米欧他の全地域でA3カラー機が販売増、欧米中心にハイブリッド型販売拡大により増収。
- OPS・GMAでは、欧米に加え、アジアでも着実に顧客基盤を拡大。

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

ITサービス  
ソリューション

**131億円**  
(前年比 +14%)

MCS: Managed Content Services・・・企業の業種・業態別の業務プロセスに入り込み、コンテンツを統合的に運用・管理し、デジタルワークフローの最適化を支援するサービス。

- ✓ 北米でハイブリッド型販売提案による大口案件の商談が増加。
- ✓ サービス事業の更なる強化に向け、企業のコンテンツ管理を最適化するMCS\*のグローバル展開を開始。

オフィス  
プロダクト

**1,396億円**  
(前年比 +9%)

OPS 売上高  
**195億円**  
(同 +76%)

GMA 売上高  
**70億円**  
(同 +28%)

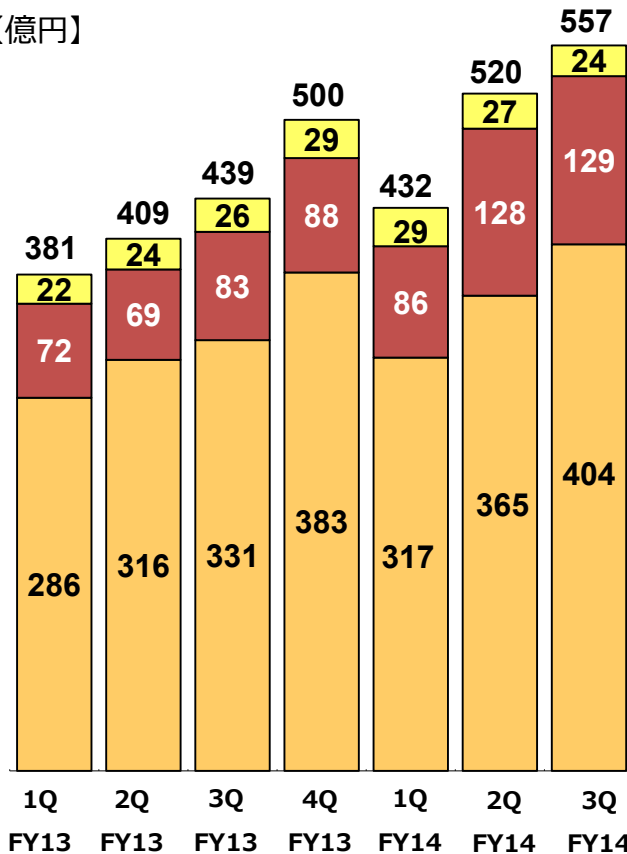
- ✓ 成長国市場はA3カラー戦略機を投入し販売台数が大幅伸長。
- ✓ 欧米での高セグメントカラーMIFの蓄積によりカラーPVが堅調。
- ✓ 欧州通信大手傘下の位置情報ビジネスのグローバル企業（世界50カ国で展開）の案件獲得。

### □ 3Q売上高：557億円（前年比 +27%）

- カラー機新製品の販売が好調。MIF拡大に伴うPV増も収益性改善に寄与。
- MPMサービスのグローバル展開に加え、Indicia社買収によりMMS\*にサービスフィールドを拡大。

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

3Q 概況

産業用  
インクジェット

**24億円**  
(前年比 △8%)

- ✓ コンポーネントは、中国市場での内需・外需の冷え込みで減速。
- ✓ テキスタイルは中位機が堅調。

MPM・  
プリントサービス

**129億円**  
(前年比 +55%)

- ✓ グローバル展開強化により大幅に売上アップ。
- ✓ Charterhouse社を通じてクロスメディアコミュニケーションを得意とするIndicia社（英国）の株式売買契約を締結。

MMS:マーケティング部門のデジタルコンテンツ/広告メディアを管理・運営するサービス。媒体ごとの反応率の分析、個人・性別・世代などの属性別に効果的な媒体の推奨など企画から関与する。

プロダクション  
プリント

**404億円**  
(前年比 +22%)

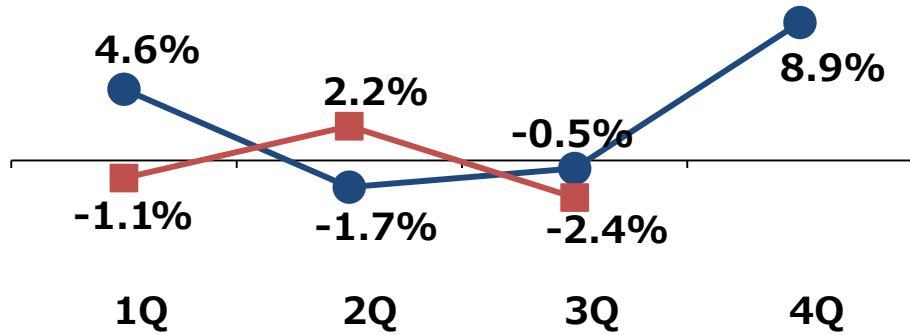
- ✓ 昨年6月発売の新製品が牽引しカラー機の販売台数増。
- ✓ 日・米・欧・その他の全地域で、ノンハード売上増収。



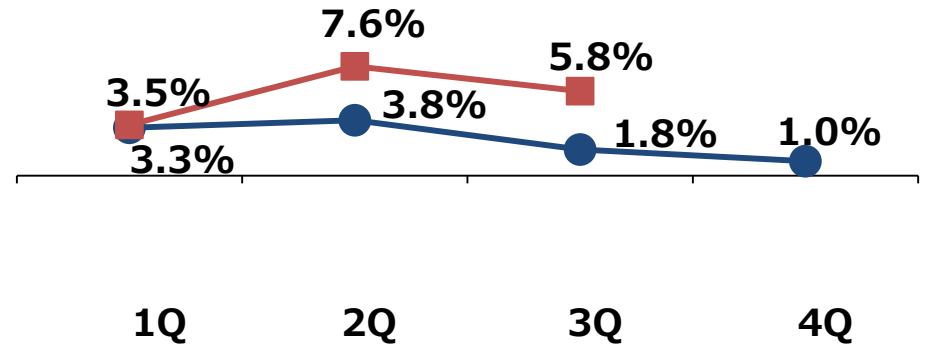
# 情報機器事業：地域別売上高増減（為替影響除く）

● 12年度→13年度      ■ 13年度→14年度

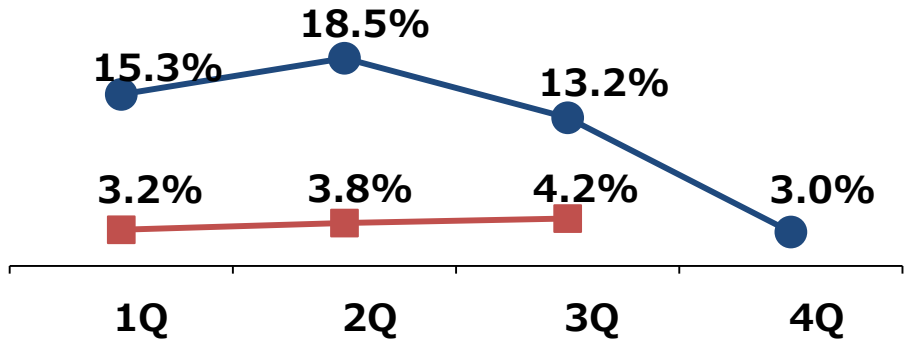
## 日本



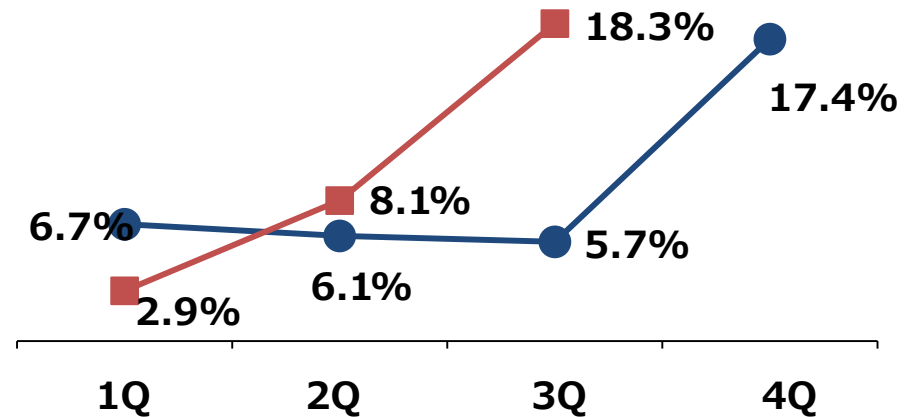
## 北米



## 欧州



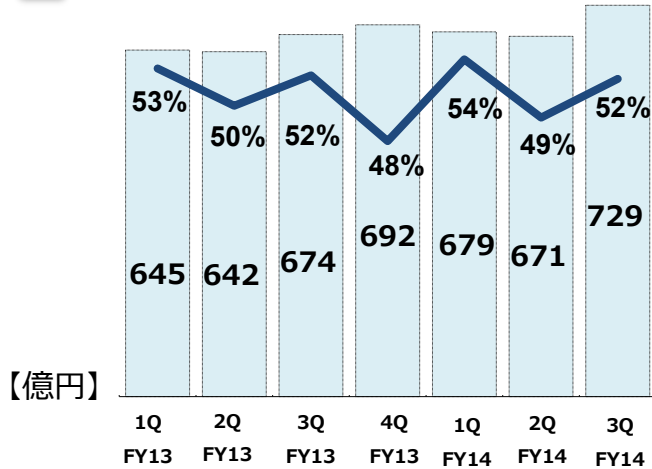
## 中国



# 情報機器事業：ノンハード売上

ノンハード売上高・ノンハード比率

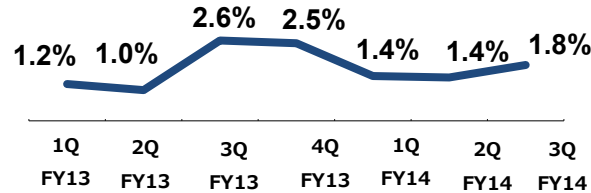
## オフィスプロダクト



【億円】

ノンハード売上高前年伸長率

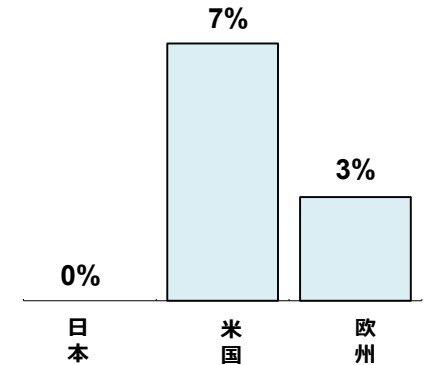
(為替影響除く)



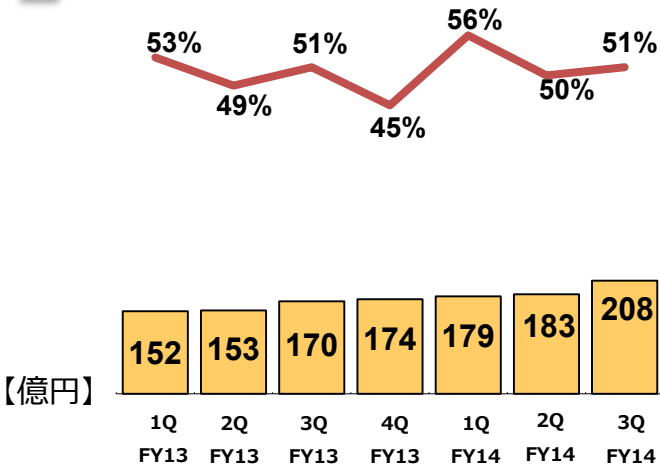
ノンハード売上高前年伸長率 (地域別)

【14年度3Q】

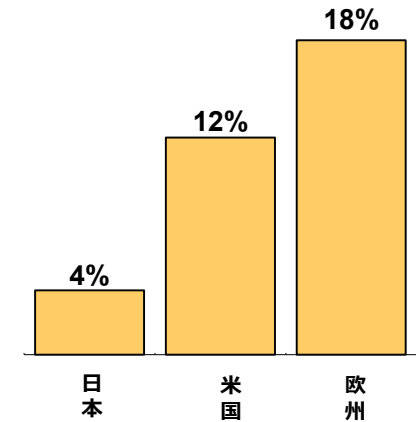
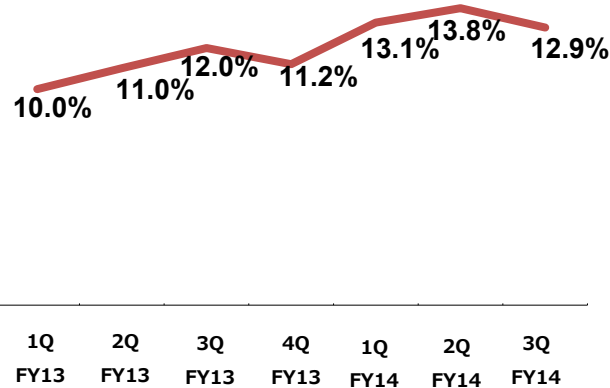
(為替影響除く)



## プロダクションプリント



【億円】



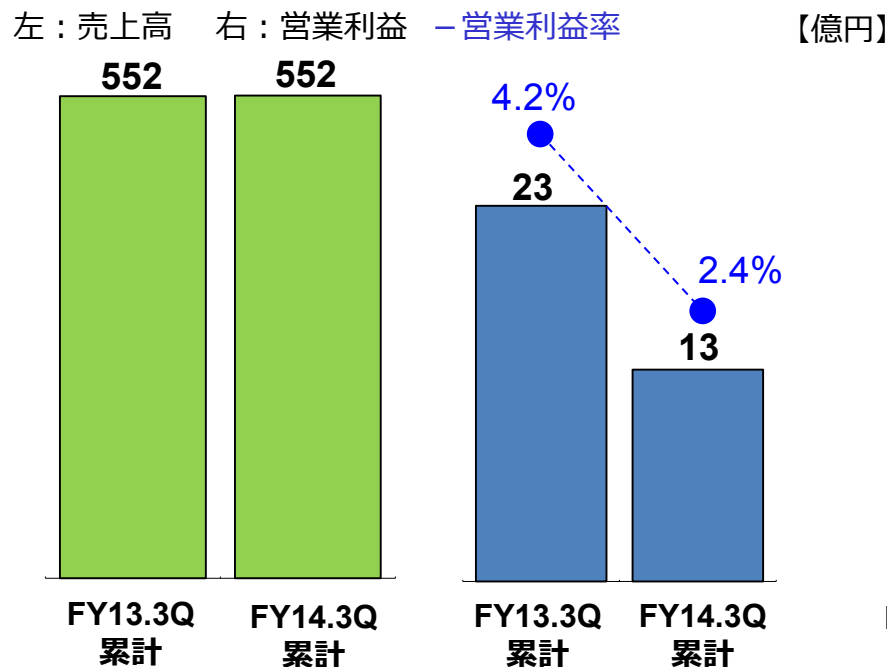
## □ 3Q累計売上高： 552億円（前年比 + 0%）

- ▶ 北米や中国、インドが好調に推移するも、主力の国内市場では上期からの市況の冷え込みの影響が長引き、売上は横這いに留まる。

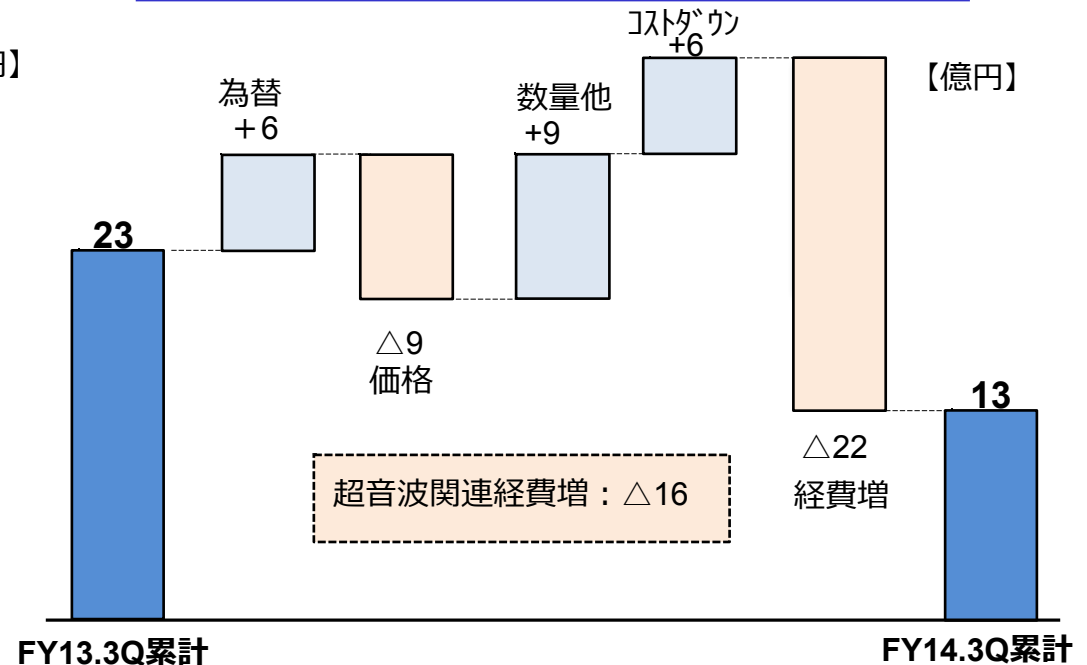
## □ 3Q累計営業利益： 13億円（前年比 △44%）

- ▶ デジタルの販売増も、超音波診断装置立上げにかかる先行費用の負担大きく、損益悪化。

売上高/営業利益 対前年増減



営業利益 対前年増減分析



# ヘルスケア事業：直近の状況（10-12月期）

## □ 3Q売上高：188億円（前年比 △2%）

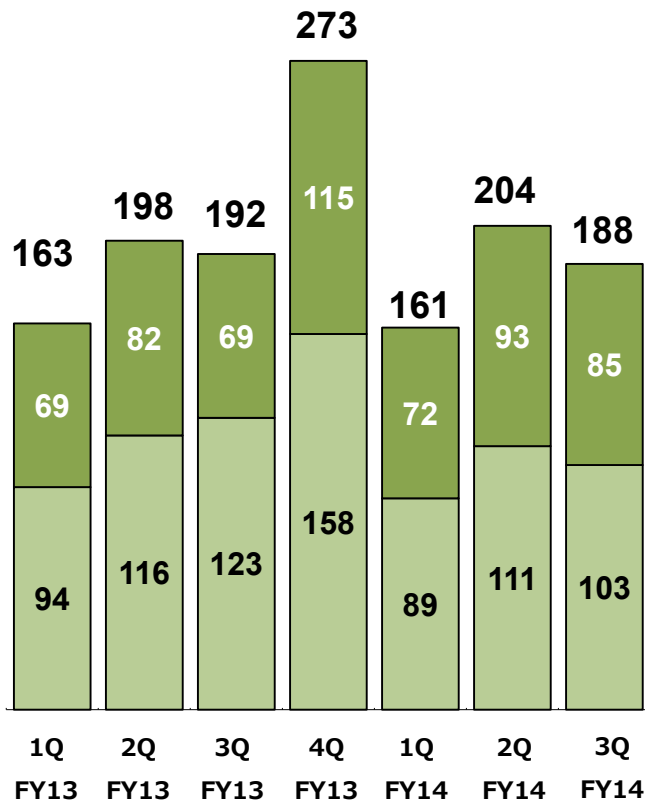
- DRが前年比販売数量を伸ばしデジタル売上は拡大するも、国内でのフィルム及び仕入れ商材の売上が減少し、前年並みの売上に留まる。

売上構成四半期推移

売上高

3Q概況

【億円】



デジタル

**85億円**  
(前年比 +23%)

- ✓ カセット型DRは国内外とも市況が厳しい中で販売数量を拡大。
- ✓ 超音波診断装置は自社開発の新製品が市場で高い評価を得るも、本格展開には時間を要す。

アナログ・その他

**103億円**  
(前年比 △16%)

- ✓ フィルム製品は新興国で販売が堅調に推移するも、先進国で縮小。国内での仕入れ商材の引き合い弱く減収。

※ デジタル：X線撮影装置(DR,CR)、超音波診断装置、医療ITなど。  
アナログ・その他：フィルム、イメージャー、仕入れ商材、など

## □ 3Q累計売上高： 870億円（前年比 △4%）

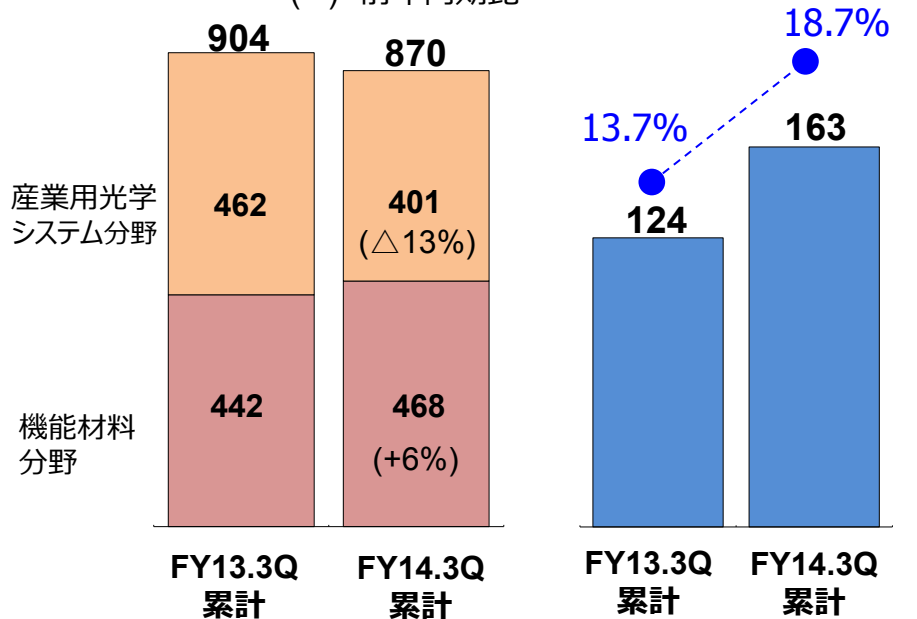
- 機能材料は増収も、コンパクトDSCの需要縮小や携帯カメラ用レンズの事業縮小、並びにHDD用ガラス基板事業撤退に伴い売上高は減少。

## □ 3Q累計営業利益： 163億円（前年比 +31%）

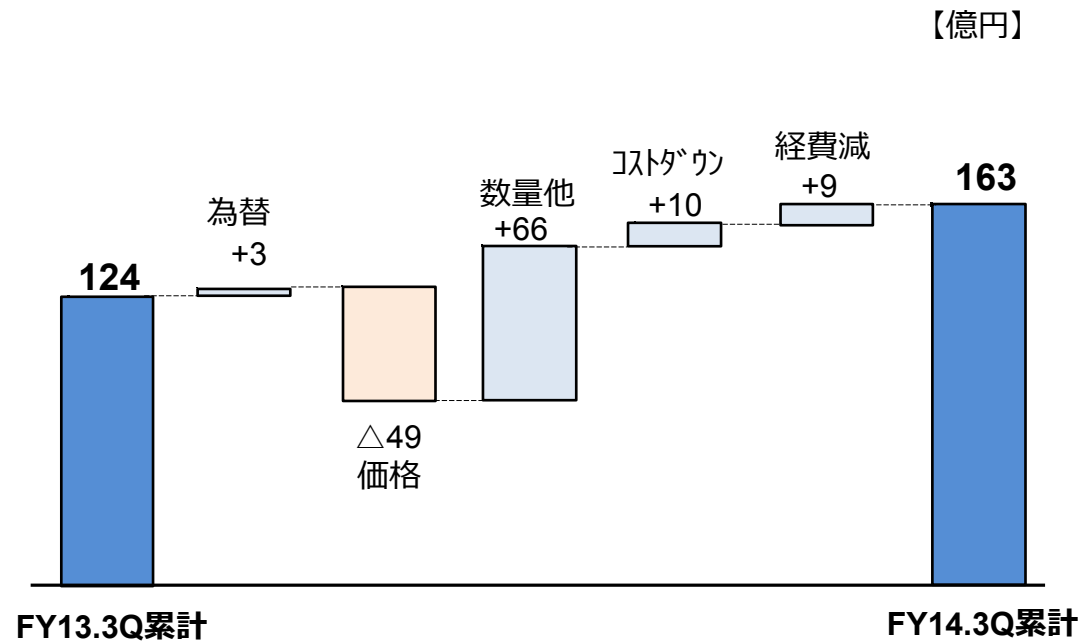
- TACフィルムの販売増及び前年に実施した産業用光学システムでの構造改革効果が増益に寄与。

売上高/営業利益 対前年増減

左：売上高 右：営業利益 - 営業利益率  
 ( ) 前年同期比 【億円】



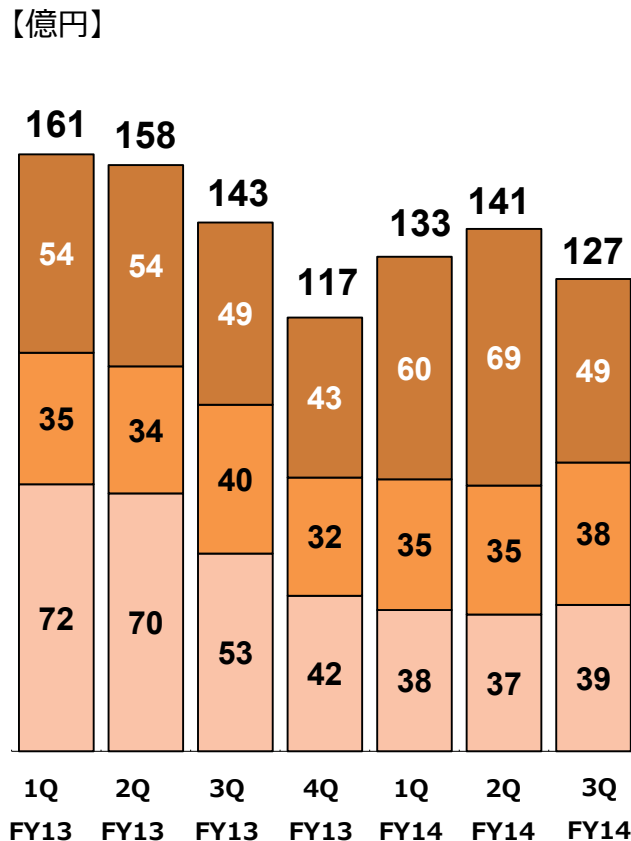
営業利益 対前年増減分析



### □ 3Q売上高：127億円（前年比 △11%）

- 計測機器のディスプレイ用測色計、光学分野の産業・プロ用レンズなど主力製品は概ね前年並み。コンパクトDSCの市況悪化及びHDD用ガラス基板撤退などにより売上減少。

売上構成四半期推移



売上高

3Q概況

計測機器

**49億円**  
(前年比 +1%)

- ✓ 主力の光源色を中心に概ね堅調に推移。
- ✓ 大口顧客向け出荷は2Qで一巡。

産業・プロ用  
レンズ

**38億円**  
(前年比 △4%)

- ✓ 主力製品は堅調に推移するも、市況が厳しく前年比微減。

その他

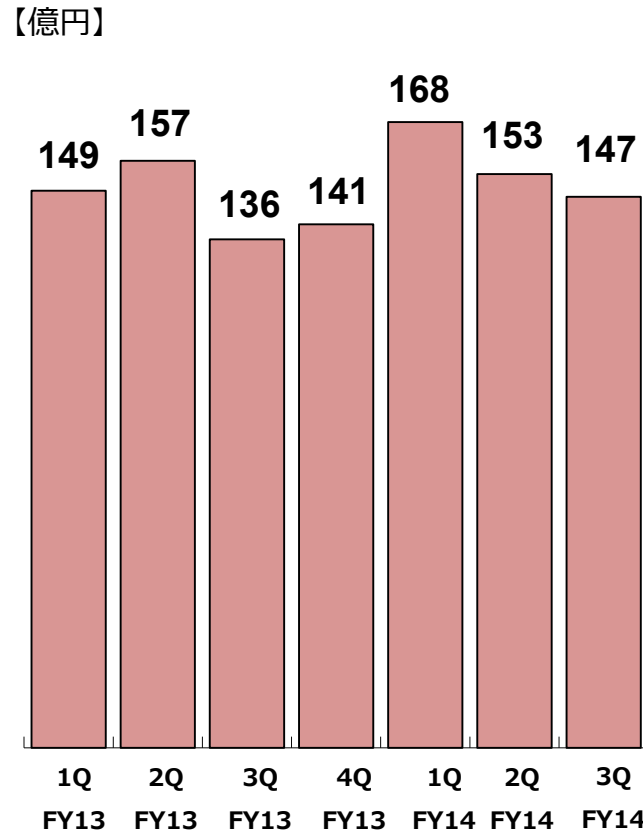
**39億円**  
(前年比 △26%)

- ✓ 家庭用ゲーム機向けBD用ピックアップレンズは堅調を維持。
- ✓ コンパクトDSCの需要縮小、HDD用ガラス基板の事業撤退で減収。

### □ 3Q売上高：147億円（前年比 +8%）

- TACフィルムは、良好な最終製品市況に支えられて大型パネル、中小型パネルとも需要堅調。VA-TACフィルムを中心に販売数量を伸ばし、前年比増収。

売上高四半期推移



3Q概況

#### ■ フラットパネルディスプレイ向け

- ・ 大型パネル用
- ・ 中小型パネル用

- ✓ 画面サイズの大型化トレンドが継続、液晶テレビ向けVA-TACの販売が堅調に推移。
- ✓ 中小型パネルの需要も引続き堅調、20-40μの薄膜TACが続伸。

#### ■ 新規領域

- ・ ウィンドウフィルム
- ・ バリアフィルム
- ・ OLED


- ✓ ウィンドウフィルムは、新製品を投入。
- ✓ バリアフィルムは、有望顧客の評価も得て製品化ステージへ。
- ✓ OLEDは、テーマパーク向けイルミネーション案件獲得。出荷に向けて量産開始。

# Transformの進捗：Indicia社買収によるMMS提供能力強化

14年度中にMPMサービスのグローバル体制を構築。

15年度中にMMS領域へサービス拡大。事業の差別化・高付加価値化を実現。

## 地域展開と提供サービス一覧

		EU	APAC	US	JP
差別化・高付加価値化	<b>MMS</b>	 FY14 3Q	FY15	FY15	FY15
		FY12	FY14 1Q	FY14 2H	FY14 2H
		マーケティング支援・企画 メディア運用 マルチチャネル運用			
		コンテンツ管理 コンテンツ作成			
	<b>MPM</b>	印刷物購買の最適化 印刷物コンサルテーション			



# 2014年度業績予想 全社ハイライト

	14年度 今回予想	14年度 前回予想	13年度 実績	[億円] YoY
売上高	10,100	10,100	9,438	7%
営業利益 (営業利益率)	650 6.4%	650 6.4%	581 6.2%	12%
経常利益	610	610	546	12%
当期純利益 (当期純利益率)	330 3.3%	300 3.0%	219 2.3%	51%
EPS (円)	65.31	59.37	41.38	
ROE (%)	7.0%	6.4%	4.6%	
設備投資額	530	600	474	
減価償却費	530	550	474	
研究開発費	770	750	712	
FCF	300	10	342	
投融資	220	450	145	
為替レート [円] USD	115.00	105.00	100.24	
euro	135.00	135.00	134.37	
	(4Q)	(3Q以降)		

1円変動時の為替感応度 (年間)

	売上高	営業利益
USD	30億円	2億円
Euro	16億円	7億円

※USドルと連動してRMBが変動した場合、営業利益におけるUSドルの為替感応度は40%程度相殺される。

※ROEの予想値については「株主資本当期純利益率」として算出。

# 2014年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益

売上高	14年度		13年度		【億円】
	今回予想	前回予想	実績		YoY
情報機器	8,100	8,100	7,399		9%
オフィスサービス	6,000	6,000	5,671		6%
商業・産業印刷	2,100	2,100	1,729		21%
ヘルスケア	850	850	824		3%
産業用材料・機器	1,150	1,150	1,161		-1%
産業用光学システム	550	550	578		-5%
機能材料	600	600	583		3%
その他	-	-	53		-
グループ全体	10,100	10,100	9,438		7%

営業利益（右側：営業利益率）	14年度		14年度		13年度		YoY
	今回予想		前回予想		実績		
情報機器	720	8.9%	720	8.9%	666	9.0%	8%
ヘルスケア	35	4.1%	45	5.3%	45	5.5%	-22%
産業用材料・機器	195	17.0%	185	16.1%	152	13.1%	29%
コーポレート他・消去	△ 300	-	△ 300	-	△ 282	-	-
グループ全体	650	6.4%	650	6.4%	581	6.2%	12%

### 情報機器事業

#### <オフィスサービス分野>

- ✓ 先進国では、カラー機拡販と大口成約案件の確実な実績化。
- ✓ 成長国では、販売好調なA3カラー戦略機の拡販継続。

#### <商業・産業印刷分野>

- ✓ カラー機新製品の拡販強化とMPMグローバル体制の強化。

### ヘルスケア事業

- ✓ 最大需要期となる国内は、DR、超音波診断装置の拡販強化。

### 産業用材料・ 機器事業

#### <産業用光学システム分野>

- ✓ 産業・プロ用レンズは、需要好転に伴う顧客要望への対応強化。

#### <機能材料分野>

- ✓ TACフィルム販売数量の最大化。



KONICA MINOLTA

# 補足情報

## <参考>2014年度通期業績予想 - IFRSベース -

当社は、当年度の有価証券報告書よりIFRS（国際会計基準）を任意適用いたします。IFRSベースでの業績予想について各方面から多くのお問い合わせをいただいている状況に鑑み、混乱を避け適切な情報開示を行う観点から、参考情報として以下の通りお知らせいたします。

<日本基準>

<IFRSベース>

売上高： 1兆100億円 → 1兆円（前年比 +6%増収）

営業利益： 650億円 → 670億円（前年比 +15%増益）

- ✓ 加算要因：のれん代非償却、減価償却方法変更、など
- ✓ 減算要因：営業外収支（金融収支除く）、特別損益、など

当期純利益： 330億円 → 430億円（前年比 +96%増益）

- ✓ 加算要因：のれん代非償却、減価償却方法変更、など

ROE： 7.0% → 9.0%（前年度 4.6%）

※ ROEの予想値については「株主資本当期純利益率」として算出。

# 2014年度3Q 全社業績要約

	14年度 3Q 累計	13年度 3Q 累計	YoY	14年度 3Q	13年度 3Q	【億円】 YoY
売上高	7,339	6,829	7%	2,553	2,324	10%
売上総利益 (売上総利益率)	3,632 49.5%	3,278 48.0%	11%	1,262 49.4%	1,137 48.9%	11%
営業利益 (営業利益率)	454 6.2%	389 5.7%	17% -	162 6.4%	147 6.3%	10% -
のれん代償却額	69	72	-4%	22	22	-1%
のれん代償却前営業利益 (のれん代償却前営業利益率)	523 7.1%	461 6.8%	14% -	184 7.2%	169 7.3%	9% -
経常利益	438	367	19%	151	152	-1%
税引前四半期純利益	412	139	196%	137	139	-1%
四半期純利益 (四半期純利益率)	220 3.0%	108 1.6%	103% -	73 2.9%	53 2.3%	39% -
E P S (円)	43.42	20.39		14.55	9.91	
設備投資額	331	313		75	118	
減価償却費	371	351		135	116	
研究開発費	557	525		190	179	
FCF	268	238		114	△ 26	
投融資	158	98		36	68	
為替レート [円] USD	106.87	99.39	7.48	114.54	100.46	14.08
euro	140.30	132.23	8.07	143.07	136.69	6.38

# 営業利益増減分析

【億円】

## 3Q累計 前年同期比較 (14年度 vs. 13年度)

### [要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計
為替影響	75	6	3	85
価格変動	△ 31	△ 9	△ 49	△ 89
数量増減他	126	9	66	202
コストダウン	39	6	10	56
経費増減	△ 174	△ 22	9	△ 189
<b>[営業利益]</b> 増減額 (YoY)	36	△ 10	39	65

## 四半期 前年同期比較 (14年度3Q vs. 13年度3Q)

### [要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計
為替影響	26	4	1	31
価格変動	△ 13	△ 4	△ 14	△ 31
数量増減他	47	4	8	57
コストダウン	13	1	5	20
経費増減	△ 69	△ 6	6	△ 62
<b>[営業利益]</b> 増減額 (YoY)	3	△ 1	7	15

# キャッシュ・フロー

[億円]

	14年度 3Q 累計	13年度 3Q 累計	YoY	14年度 3Q	13年度 3Q	YoY
税金等調整前四半期純利益	412	139	273	137	139	△ 1
減価償却費	371	351	20	135	116	19
法人税等の支払額	△ 97	△ 102	6	△ 34	△ 48	14
運転資本増減他	28	231	△ 203	31	△ 47	79
<b>I. 営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>714</b>	<b>619</b>	<b>95</b>	<b>269</b>	<b>159</b>	<b>111</b>
<b>II. 投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 446</b>	<b>△ 381</b>	<b>△ 65</b>	<b>△ 156</b>	<b>△ 185</b>	<b>29</b>
<b>I.+ II. FCF</b>	<b>268</b>	<b>238</b>	<b>30</b>	<b>114</b>	<b>△ 26</b>	<b>139</b>
有利子負債の増減	△ 235	△ 82	△ 153	△ 61	△ 51	△ 9
自己株式の取得	△ 135	△ 0	△ 135	△ 24	-	△ 24
配当金の支払額	△ 88	△ 91	3	△ 49	△ 52	2
その他	△ 14	△ 16	2	△ 4	△ 6	2
<b>III. 財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 472</b>	<b>△ 190</b>	<b>△ 282</b>	<b>△ 138</b>	<b>△ 109</b>	<b>△ 29</b>



# 販売管理費・営業外損益・特別損益

	[億円]					
	14年度 3Q 累計	13年度 3Q 累計	YoY	14年度 3Q	13年度 3Q	YoY
販売管理費						
販売変動費	414	375	39	139	126	13
研究開発費	557	525	32	190	179	11
人件費	1,362	1,241	121	478	433	46
その他	844	747	97	291	252	39
販売管理費 計	3,178	2,888	289	1,099	990	109
	*為替影響額：					
	+102億円 (実質増減 +187億円)			+48億円 (実質増減 +61億円)		
営業外収支						
金融収支	1	△ 5	6	△ 1	△ 1	△ 0
為替差損益	15	0	15	8	6	2
その他	△ 32	△ 17	△ 15	△ 18	△ 0	△ 18
営業外収支 計	△ 16	△ 22	6	△ 11	5	△ 16
特別損益						
固定資産除却売却損益	9	△ 14	24	△ 1	△ 9	8
投資有価証券売却・評価損益	△ 1	0	△ 1	△ 1	0	△ 1
事業構造改善費用	△ 7	△ 179	172	△ 6	△ 7	1
その他	△ 28	△ 35	7	-	-	-
特別損益 計	△ 26	△ 228	202	△ 14	△ 14	△ 0

# 貸借対照表

			[億円]
	14年12月	14年3月	増減
<b>資産の部</b>			
手元資金	1,705	1,885	△ 180
売上債権	2,211	2,201	10
たな卸資産	1,347	1,153	194
その他	686	654	31
流動資産 計	5,949	5,893	56
有形固定資産	1,809	1,734	76
無形固定資産	1,150	1,114	37
投資その他	1,008	920	88
固定資産 計	3,967	3,767	200
資産 合計	9,917	9,661	256
<b>負債および純資産の部</b>			
仕入債務	977	962	15
有利子負債	1,750	1,961	△ 211
その他負債	2,186	1,936	250
負債 合計	4,914	4,860	54
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,983	4,784	199
その他	20	17	4
純資産 合計	5,003	4,801	202
負債・純資産 合計	9,917	9,661	256
			[円]
	14年12月	14年3月	増減
USD	120.55	102.92	17.63
euro	146.54	141.65	4.89

## 主要指標

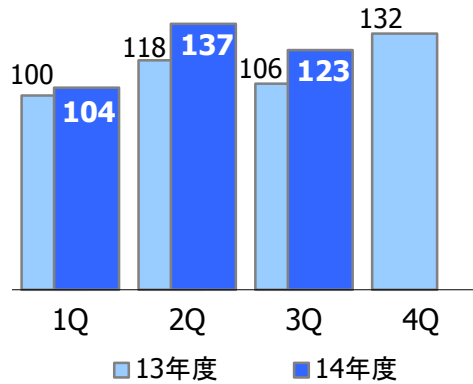
	14年12月	14年3月
D/Eレシオ (倍)	0.35	0.41
たな卸資産回転月数	3.13	2.52
自己資本比率 (%)	50.2	49.5

# 情報機器事業：主要製品販売状況（四半期推移）

## ■ A3カラーMFP 販売台数\*

YoY: +16%

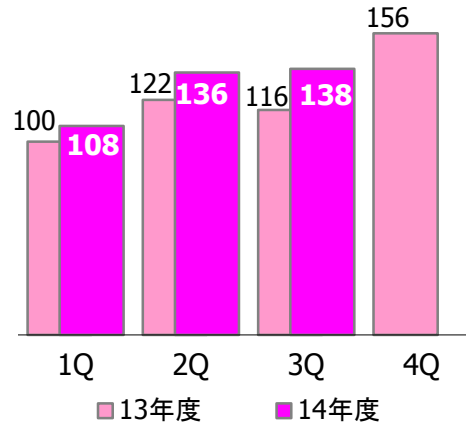
QoQ: △ 10%



## ■ カラープロダクションプリント 販売台数\*

YoY: +18%

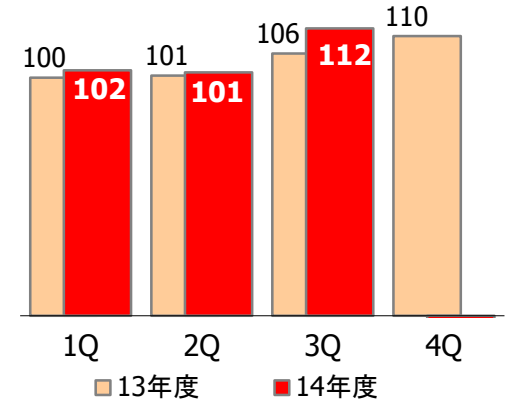
QoQ: +1%



## ■ オフィスノンハード売上\*為替影響除く

YoY: +6%

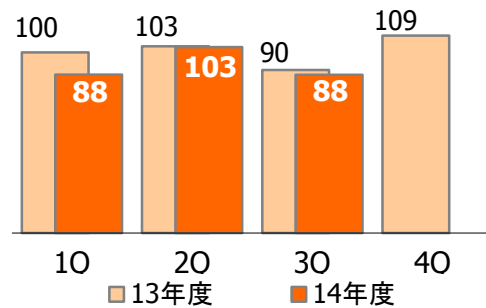
QoQ: +11%



## ■ A3モノクロMFP販売台数\*

YoY: △ 3%

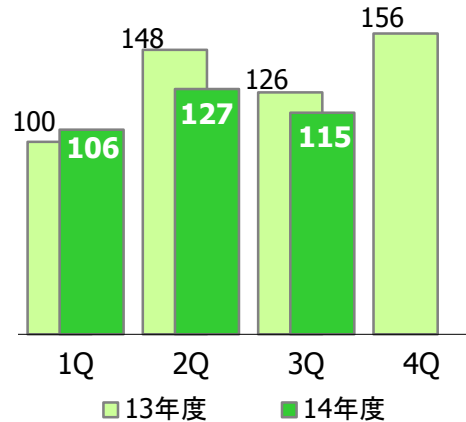
QoQ: △ 15%



## ■ モノクロプロダクションプリント販売台数\*

YoY: △ 8%

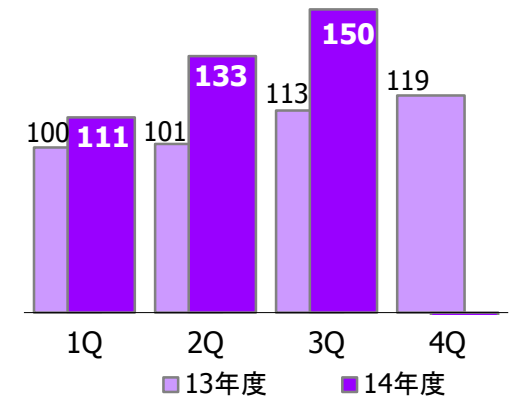
QoQ: △ 10%



## ■ プロダクションプリント ノンハード売上\*為替影響除く

YoY: +32%

QoQ: +13%



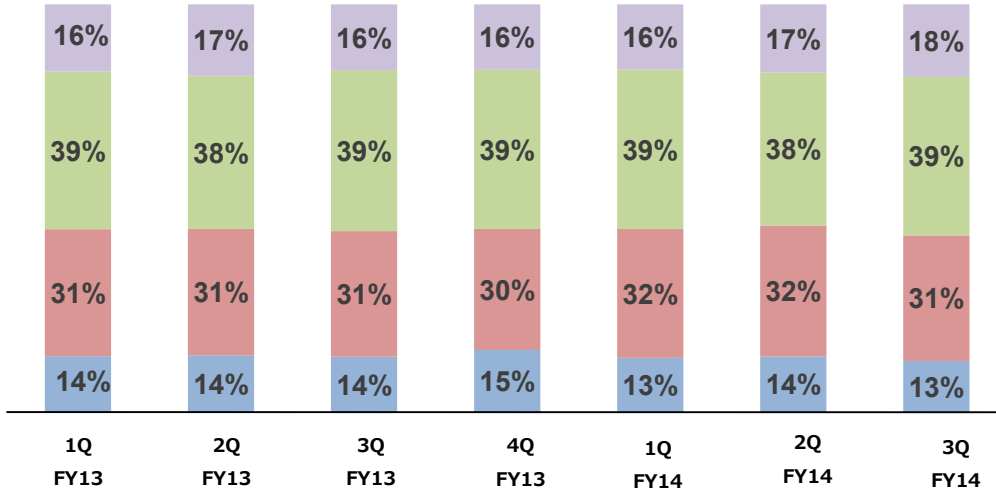
前方棒グラフ：2014年度実績 後方棒グラフ：2013年度実績

\* 2013年度1Qを100とした場合の指数

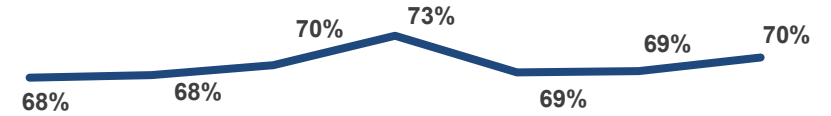
# 情報機器事業：販売状況（四半期推移）

■ 地域別売上高構成比（円貨ベース）

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ その他

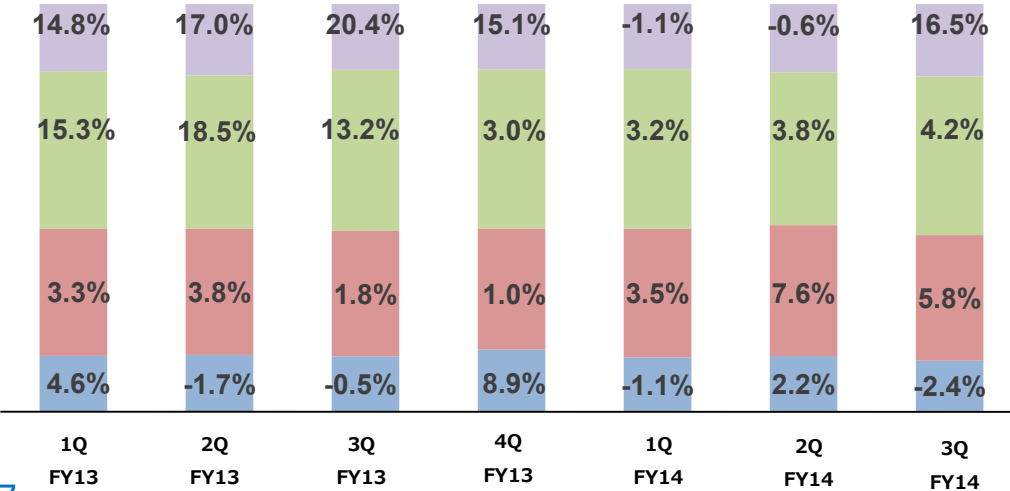


■ ハード売上に占めるカラー比率（オフィス）

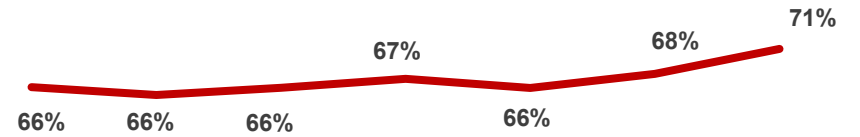


■ 地域別売上高増減（為替除く）

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ その他



■ ハード売上に占めるカラー比率（PP）



**Giving Shape to Ideas**



**KONICA MINOLTA**